

59 スナガニ

(スナガニ科)

兵庫県ランク:B

Ocypode stimpsoni

環境省ランク:指定なし

種の概要

山形県から鹿児島県にかけて分布する。甲幅雄20mm、雌30mm。砂浜海岸の中潮線から高潮線にかけて巣穴を掘る。甲はほぼ立方体に近く、脚が長い。ハサミ脚は雌雄ともに左右どちらかが大きい。夏の繁殖期には雄の体色が全身朱色となる。初夏から初秋にかけてのみ見られる南方系種ツノメガニとの幼体同士の識別は非常に難しいが、本種の甲の後方には白いDの字を向かい合わせたような斑紋が1対見られるのに対し、ツノメガニではこの部分が褐色の斑紋であること、ツノメガニの方が甲に対する脚の長さが長いことなどが識別点となる。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
○	△		○				

県内分布

神戸市、西宮市、加古川市、明石市、高砂市、姫路市、たつの市、赤穂市、豊岡市、香美町、新温泉町、洲本市、南あわじ市、淡路市

県内における生息状況及びその他特記事項

新規追加種。日本海側及び阪神地域から播磨西部、淡路島。日本海側は砂浜も多く、各所で見られる。阪神地域の砂浜は海岸線から護岸までの距離が短く、巣穴が点在する程度しかいない。淡路島では西岸に多産地があるものの、東岸では近年、南方系の近似種ツノメガニの方が多く見られる。

保護上の留意点

ほぼ県内全域に生息しており、日本海側では個体数も多いが、海水浴場となる場所では毎年のように海岸の整備が行われており、強度の人的攪乱にさらされている。瀬戸内海側では砂浜自体が減少したため、希少となった。また、客砂された砂浜では個体数は明らかに少なくなるため、人の手の入っていない砂浜を維持することが必要となる。



写真提供：増田修



写真提供：渡部哲也

【執筆者】 渡部哲也